

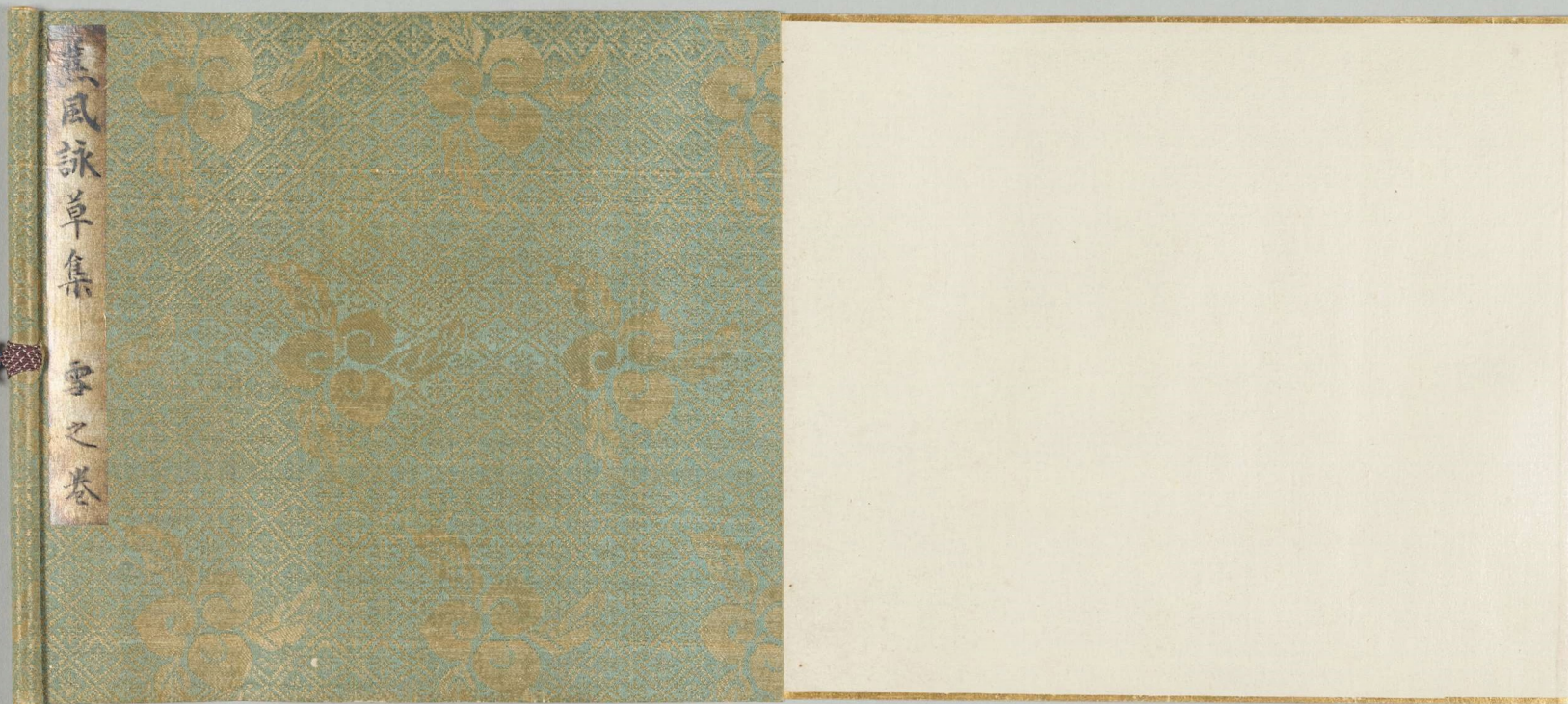


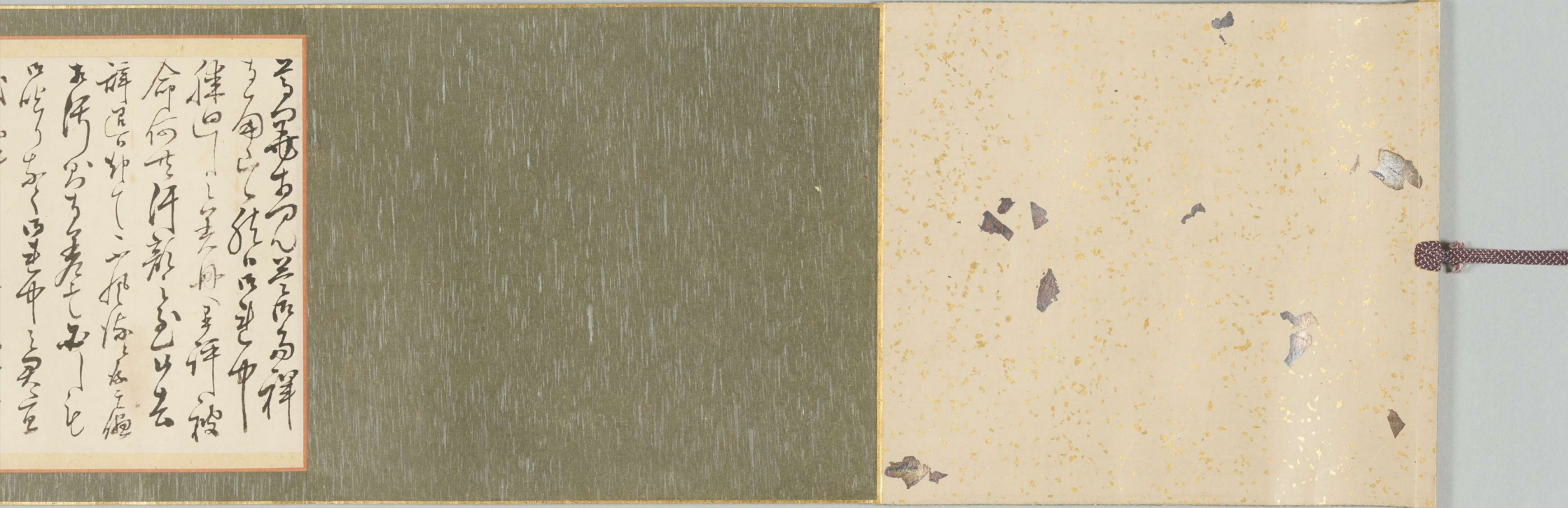
楚風詠草集

卷



蕙風詠草集 雲之卷





天の志を成すは人の志を成すに非ざらん
夫れ故に天は人をして徳を修むに誘はるるなり
徳は人の心をして正しめしめしめりて
命を全し天に事するに足るなり
故に徳は人の命を全するに足るなり
徳は人の心をして正しめしめしめりて
命を全し天に事するに足るなり
故に徳は人の命を全するに足るなり

その事あるは其の事多し
と申して然る事の中
律白くして其の事多し
命何ぞ其の事多し
神官の事多し
其の事多し
其の事多し
其の事多し
其の事多し
其の事多し

其の事多し
其の事多し
其の事多し
其の事多し
其の事多し

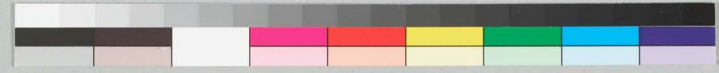
其の事多し
其の事多し
其の事多し
其の事多し
其の事多し

其の事多し
其の事多し
其の事多し
其の事多し
其の事多し

其の事多し
其の事多し
其の事多し
其の事多し
其の事多し

其の事多し
其の事多し
其の事多し
其の事多し
其の事多し

其の事多し
其の事多し
其の事多し
其の事多し
其の事多し



古河程并 書

秋の頃今や
樹をこぼさる

かゝるに
秋の樹の影

晴吟の詩
早の山を

今も
思ふに

以て
新や

秋の
仲と

草の
あや

老
望の

道
あや

海
あや

新
あや

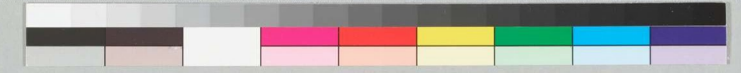
林
あや

山
あや

水
あや

花
あや

鳥
あや



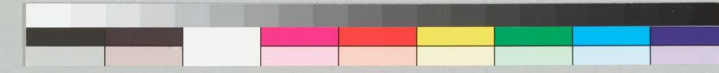
所
始

也
子

新
流
之
名
水
何
何
何
何

秋
山
白
何
何
何
何
何
何
何
何
何
何
何
何

万
集



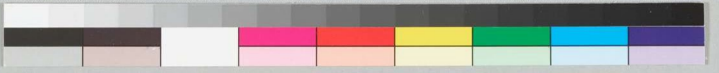
春の月... 秋の月...
あつた...
あつた...

五月

五月の月... 五月の月...
五月の月... 五月の月...
五月の月... 五月の月...

五月の月... 五月の月...
五月の月... 五月の月...
五月の月... 五月の月...

五月の月... 五月の月...
五月の月... 五月の月...
五月の月... 五月の月...



新田七郎
のてら

神

ふく

甲斐の
ま

ふ

連
廣正
七郎

時
子

移
る

中
花

石

石
の

年

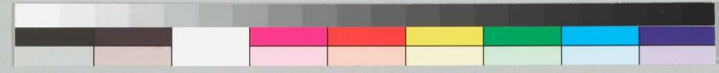
石

石

石

石

石



石
子

自作の文書

見せしめたる

石

石

石

石

石

石

石

石

石

石

石

石

石

石

石

石

石

石

石

あつたねに...
あつたねに...
あつたねに...
あつたねに...
あつたねに...

ふゆふゆふゆ
ふゆふゆふゆ
ふゆふゆふゆ
ふゆふゆふゆ
ふゆふゆふゆ

実の入るふ遊んで
ふゆふゆふゆ
ふゆふゆふゆ
ふゆふゆふゆ
ふゆふゆふゆ



く記す何をも
流つく子の坊

問ふささし
めんやまらに

名月や何をも
染まら明のうね

月をさそすし
うらまを音のむ

山花や女子園若丹
袖のる

ささすしあつた
柳

か
子

左
右

新子さすし

足美さすし

解と板と美代

さすし日さすし

所のちさすし

常や林解

子さすし

二さすし

周さすし

原さすし

か
子

か
子



子もや道へ
二つ一 浄水
周へおしり
原へ 鹿の年

中作
心

ふん
ふん
ふん

ふん
ふん
ふん

ふん
ふん
ふん

ふん
ふん
ふん

ふん
ふん
ふん

ふん
ふん
ふん

ふん
ふん
ふん

ふん
ふん
ふん

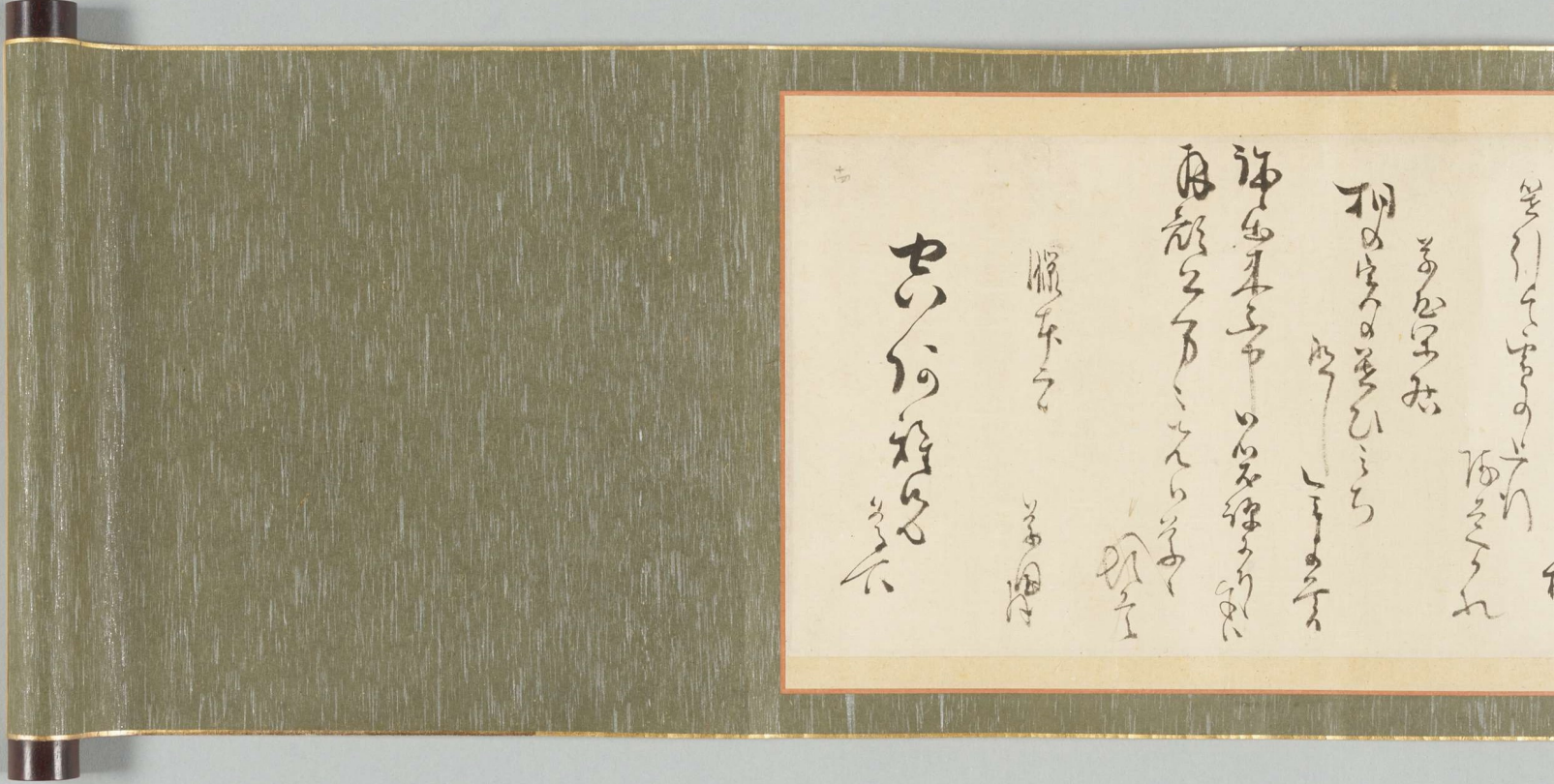
中作
心

月色を御へ

はるか

はるか





忠
臣
の
志

懐
古
之

心
事

海
内
の
名
士
を
追
慕
す
心
を
こ
め
て
書
す
所
也
其
の
意
は
一
切
の
事
を
離
れ
て
心
を
こ
め
て
書
す
所
也
其
の
意
は
一
切
の
事
を
離
れ
て
心
を
こ
め
て
書
す
所
也



